

永保寺調査概要

建造物研究室

昭和42年6月4日から6日にかけて永保寺の地形実測調査を行つた。その結果の概略と、10月に建築班が調査した際、観音堂仏壇裏で発見した墨書きあわせて紹介したい。

1

永保寺は、鎌倉時代末に夢窓国師が庵を結んだところである。「夢窓国師年譜」によると、国師は正和2年(1313)甲斐の竜山庵を出て、美濃の長瀬山に至り、その地が山水景物天開图画の如き幽境で甚だ意に適い、庵を建て扁して古谿といい、のち虎谿に改めた。

翌3年観音閣を建てたが、堂前の園池も同時に築造されたものと思われる。「仏徳禪師語録」偈頌の部によると、「虎谿山居偶作」と題して

鏡面新^ニ開^{イテ}池水清^ク前峰倒^レ影^ヲ入^ル波心^ニ

と見える。

2

寺域の現況は、第2図に示した。

観音堂の前には池(臥竈池)があり、無際橋が架けられている。その南東に小池がある。この小池と道をへだてた西側に庭地があり、池跡と考えられる。永保寺所蔵の古図が二種あり、一つは享和3年(1803)

無際橋

再興之事

文政十一年

戊戌林鐘

十二日修造

了小橋共^ニ

同十八日供養

水陸会

大橋番匠八

一六人小橋

二ヶ處卅六人

文明戌六

月廿四日

志之

為後代也

住

中聚西堂

奉行別ニ在之

辛勞推察

可在者也

森
二ヶ處ニテ
載之

本
利田森
八幡森

橋木
出處

の銘があり、他は年代不明ではあるが、前者とほど同じ頃のものと思われる。享和3年銘には池が3ヶ所描かれている。後者には2ヶ所示されているが、一つの池は臥竜池と南東の小池がつながったような形に描かれている。

調査の際たまたま池底掃除を行つていた。池底は、岸近くはバラス敷きであるが、池の中心部は泥が深く底に達せずに終つたと聞く。いま開山堂の西側をまわつて土岐川に流れ入る川があり底は岩盤である。もとはこの川が直進し、梵音岩の下で淵をなしていたものであろう。

門は現在東に一門のみであるが、前述の古図は、両者とも南と東に門を描いている。池の南、土岐川に近いところに表門跡と称するものが残つております。本来は南から入つたのであろう。

3

第1図に示した写真が觀音堂仏壇框裏の墨書きである。

これによると、文明10年に無際橋がかなり大規模に再興されたことがうかがえる。しかし無際橋が亭橋であるか否かは不明である。

前述古図にはともに橋が描かれており、享和3年銘のは擬宝珠勾欄付反橋であるが、他の一鋪には勾欄がない。そしてどちらにも屋形は描かれていない。

「小橋二ヶ處」の場所は不明であるが、觀音堂の東にある小島に現在コンクリートの橋が架かっており、あるいはこの前身かと思われる。

(牛川喜幸)

第2図 永保寺庭園地形実測図